## あとがき

仏教とキリスト教という途方もない課題をかかえて生きづまり、勉強を断念しようと思った。中国浄土教の途中である。だが、イエスや道元に触れずに終るのは、淋しい。最後にまとめておこうと思ったのが、「現成公按・私釈」である。

それを柳田聖山先生が、この研究報告に選んで下さり、第一部の論文となった。その後、「十二巻本『正法眼蔵』の諸問題」に刺激されて一気に書いたのが、第三部「新生の道元」で、「禅文化研究所紀要」19号に掲載されたものに加筆訂正を加えた。柳田先生のお勧めをいただき、石井修道氏の『道元禅の成立史的研究』に触発されて、心もとない筆を進めたのが、第二部「道元の禅宗批判」である。その一部を「禅文化研究所紀要」20号に掲載していただいたが、若干変更を加えた。

柳田先生の長年の暖かい見守りがなかったら、とてもこれはできなかった。そのご恩は言葉に尽くせない。さらに序文・題字を戴き、内容のご指導を受け、最後の校正まで細かく目を通して頂いた。身に余る光栄であり、深くお礼申し上げる。

上田閑照先生には「現成公按・私釈」草稿を、十五年以上も前にはじめて見ていただいて以来、ご指導いただき、また鈴木格禅先生には、道元研究において、いつもお励ましをいただいている。両先生に心からの感謝を捧げたい。

版下作成に際しては、ウルス・アップ氏に、コンピューターの操作を、一から教えていただいた。その他、花園大学国際禅学研究所の方々にいろいろお世話になった。皆様に心からお礼を申し上げる。

この出版を機に、また勉強を続けようと思う。拙い研究へのご批判をいただければ幸いであるが、ともかく、一人でも多くの方々とともに、仏道を、そしてイエスに従う道を歩んで行きたいと、祈るのみである。

一九九五年二月　　近江・山水庵にて　　著者しるす